

# 北海道農業・農村の概要

平成30年4月 北海道農政部

## 1 本道農業の地位・特徴

- 本道では、全国の約4分の1の耕地面積を活かし、稲作、畑作、酪農などの土地利用型農業を中心とした生産性の高い農業を展開
- 28年の農業産出額は、1兆2,115億円で過去最高を更新し、全国の13.2%を占める
- 27年の北海道の食料自給率は221%(概算値)であり、我が国における食料の安定供給に重要な役割を發揮  
また、本道の農業・農村は食品加工業や観光業など幅広い産業と結びつき、地域経済の活性化や雇用の確保に大きく貢献
- 本道の1農業経営体当たり耕地面積は、都府県の約13倍に当たる28.2ha、販売農家に占める主業農家の割合は75%と、大規模で専門的な経営を展開
- 本道は土地面積が大きく、気象や立地条件などの違いから、それぞれの地域において特色ある農業を展開

### ■ 本道農業の全国シェア

区分	単位	北海道(A)	全国(B)	A/B(%)	年次
耕地面積	千ha	1,145	4,444	25.8	29年
販売農家戸数	千戸	36	1,200	3.0	29年
農家人口	千人	136	4,375	3.1	29年
農業就業人口	千人	94	1,816	5.2	29年
農業産出額	億円	12,115	92,025	13.2	28年
食料自給率	%	221	39	-	27年

資料:農林水産省「耕地面積調査」、「農業構造動態調査」ほか

注:食料自給率はカロリーベース

### ■ 本道と都府県の農家の比較

区分	単位	北海道(A)	都府県(B)	A/B(倍)	年次
1農業経営体当たり経営耕地面積	ha	28.2	2.1	13.4	29年
1戸当たり乳用牛飼養頭数	頭	123.5	53.8	2.3	29年
基幹的農業従事者65歳未満割合	%	61.4	32	1.9	29年
主業農家数/販売農家数	%	75.2	20.7	3.6	29年
農業依存度	%	93.1	53	1.8	28年

資料:農林水産省「農業構造動態調査」、「畜産統計」ほか

### ■ 本道農業の地域別特色

区分	特色
道央	稲作を中心に、野菜、軽種馬、肉用牛などの多様な農業
道南	稲作や施設園芸、畑作、果樹などの集約的な農業
道東(十勝・オホーツク)	大規模で機械化された麦、豆、馬鈴しょなどの畑作や酪農畜産
道東(釧路・根室)、道北	冷涼な気候を活かした、EU諸国に匹敵する大規模な草地型酪農

注:道央(空知、石狩、胆振、日高、上川、留萌)、道南(後志、渡島、檜山)、道北(宗谷)

## 2 本道農業・農村の動向

- 耕地面積は近年横ばいで推移しており、29年は114万5千ha
- 認定農業者など担い手への農地の利用集積は、年々進展し、28年度末(29年3月)の集積率は90.2%
- 経営規模の拡大や営農条件の改善に対応するため、ほ場の大区画化(水田)、起伏修正や排水整備(畑地・草地)などの生産基盤を整備し、農地の生産機能を維持
- 農家戸数が29年で約3万6千戸と年々減少する中、農業就業者の高齢化が進行

### ■ 耕地面積等の推移 (単位:千ha、%)

区分	H12	H17	H22	H27	H28	H29
耕地面積	1,185	1,169	1,156	1,147	1,146	1,145
田	236	228	225	223	223	222
普通畑	414	412	414	415	416	416
牧草地	534	525	514	507	505	503
担い手への利用集積率	58.6	79.4	87.5	88.5	90.2	—

資料:農林水産省「耕地面積調査」、北海道農政部調べ

注:担い手は認定農業者及び市町村基本構想水準到達者

### ■ 水田、畑地・草地の基盤整備状況の推移 (単位:%)

区分	H23	H24	H25	H26	H27
水田整備率(1ha以上)	8.8	9.6	10.6	11.6	12.6
畑地・草地排水整備率	61.4	60.9	61.3	61.5	61.9

資料:農林水産省「農業基盤情報基礎調査」による道推計値

### ■ 農家戸数、農業就業人口等の推移(販売農家)

(単位:戸、人、%)

区分	H12	H17	H22	H27	H28	H29
農家戸数	62,611	51,990	44,050	38,086	37,200	36,300
農家人口	261,160	211,929	172,779	143,404	140,800	136,000
農業就業人口	152,387	131,491	111,324	96,557	94,800	93,700
65歳以上率	31.2	34.1	34.4	36.0	37.6	38.5

資料:農林水産省「世界農林業センサス」、「農業構造動態調査」

- 28年の農家子弟を含めた新規就農者の総数は566人  
なお、農外からの新規参加者は、26年以降120人程度で推移

■ 新規就農者数の推移 (単位:人)

区分	H12	H17	H22	H26	H27	H28
新規学卒就農者	343	331	302	204	189	181
Uターン就農者	192	267	337	283	274	268
新規参加者	64	55	61	125	126	117
計	599	653	700	612	589	566

資料:北海道農政部調べ

- 認定農業者は、5年の制度創設以来、着実に増加していたが、近年は離農や法人化の進展に伴い減少傾向にあり、29年3月末現在、3万497経営体

■ 認定農業者数、農地所有適格法人数の推移 (単位:人・経営体)

区分	H12	H22	H26	H27	H28	H29
認定農業者	13,481	32,823	30,964	31,286	31,056	30,497
農地所有適格法人数	1,794	2,642	2,928	3,045	3,181	3,302

資料:北海道農政部調べ

- 農地所有適格法人(※)は、年々増加しており、29年1月1日現在、3,302法人  
※ 28年4月の農地法の改正に伴い、「農業生産法人」から名称変更

■ 農外企業等の農業への参加状況の推移 (単位:経営体)

区分	H17	H22	H27	H28	H29
農地を所有する農地所有適格法人	65	119	182	196	206
農地を賃借する一般法人	—	30	78	85	99
計	—	149	260	281	305

資料:北海道農政部調べ

- 農外企業等の農業への参加は、農地を所有する農地所有適格法人の設立などにより年々増加し、29年で305経営体

■ 農業産出額の構成(H28) (単位:億円、%)

区分	北海道	構成比	全国	構成比	道/全国	順位
農業産出額	12,115	100.0%	92,025	100.0%	13.2%	1
耕種	5,130	42.3%	59,801	65.0%	8.6%	1
米	1,167	9.6%	16,549	18.0%	7.1%	2
麦類	165	1.4%	312	0.3%	52.9%	1
雑穀類	29	0.2%	80	0.1%	36.3%	1
豆類	196	1.6%	554	0.6%	35.4%	1
いも類	780	6.4%	2,372	2.6%	32.9%	1
野菜類	2,206	18.2%	25,567	27.8%	8.6%	1
果実類	61	0.5%	8,333	9.1%	0.7%	35
花卉類	118	1.0%	3,529	3.8%	3.3%	9
工芸農作物	363	3.0%	1,871	2.0%	19.4%	1
畜産	6,986	57.7%	31,626	34.4%	22.1%	1
肉用牛	1,041	8.6%	7,391	8.0%	14.1%	2
乳用牛	4,712	38.9%	8,703	9.5%	54.1%	1
豚	424	3.5%	6,122	6.7%	6.9%	5
鶏	377	3.1%	8,754	9.5%	4.3%	7
軽種馬	404	3.3%	405	0.4%	99.8%	1

資料:農林水産省「生産農業所得統計」

- 農業産出額では、麦類、雑穀、豆類、いも類、工芸農作物、乳用牛、軽種馬の全国に占める割合が高く、そのうち、麦類と乳用牛は全国の過半数を占める

(参考) 生産量全国一位の品目(H28)

小麦、そば、大豆、小豆、馬鈴しょ、てん菜、いんげん、たまねぎ、生乳、牛肉、軽種馬 など

- 1経営体当たりの農業所得は、酪農部門の粗収入の増加等により、28年は930万円と前年から増加  
また、農業所得率についても、28年は30%と前年から上昇

■ 農業経済の動向(1経営体当たり) (単位:千円、%)

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28
農業所得	5,812	5,934	6,387	6,768	8,507	9,304
総所得	7,196	7,359	7,877	8,122	9,963	10,743
農業所得率	24.8	24.6	25.9	26.0	29.4	30.3

資料:農林水産省「農業経営統計調査」

- 経営部門別の農業所得は、水田作と酪農において前年から増加したが、畑作は減少  
農業所得率については、酪農において前年から上昇

■ 経営部門別の農業所得(所得率) (単位:千円、%)

区分	H26	H27	H28
水田作	4,107 (29.5)	6,009 (36.3)	6,018 (34.6)
畑作	10,116 (31.9)	11,472 (32.7)	9,411 (28.8)
酪農	11,866 (17.2)	16,133 (21.2)	21,699 (26.2)

資料:農林水産省「農業経営統計調査」

- クリーン農業では、YES!clean登録集団数が28年産で323集団と微減傾向だが、作付面積は17,600haと増加傾向

■ YES!clean登録集団の推移 (単位:集団、ha)

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28
実集団数	340	345	349	337	334	323
作付面積	14,960	15,625	16,643	17,027	17,141	17,600

資料:北海道クリーン農業推進協議会調べ

- 地域資源を活用し、6次産業化に取り組んでいる農業生産関連事業体数は、27年で、3,440件と微減傾向

■ 道内における農業生産関連事業体数 (単位:件)

区分	H25	H26	H27
農産物の加工	1,220	1,250	1,290
農産物直売所	1,320	1,350	1,330
観光農園	480	390	390
農家民宿	320	320	300
農家レストラン	170	150	140
合計	3,510	3,460	3,440

資料:農林水産省「6次産業化総合調査」